

PRESS RELEASE (2024/02/26)

日本の科学技術論を牽引した故・吉岡斉氏の資料群を公開へ 原子力政策等に係る貴重な資料数万点

九州大学大学文書館は、日本の科学技術論を牽引し、原子力政策にも深くかかわった故・吉岡斉氏が所蔵していた図書と紙の文書類、電子ファイルからなる資料群「吉岡斉資料」を保管しております。図書につきましては、既に目録を作成し公開しておりますが、その他の紙の文書類と電子ファイルについても現在整理作業を進め、2024年秋をめどに公開を開始する予定となりました。

吉岡氏が2018年に逝去された後、所蔵していた図書・文書等は一度早稲田大学の綾部広則教授と下関市立大学の川野祐二教授が引き取り、仮整理と紙の文書類のPDF化が行われました。その後、2020年に九州大学大学文書館が寄贈を受け、同年より九州大学社会運動資料研究会を立ち上げました。十数名のボランティアと大学文書館職員によって資料目録の作成作業が開始され、図書については2022年に目録が完成しました。書庫を完備し、「吉岡斉科学技術史文庫」としてすでに公開しています（閲覧のみ、貸出・複写は不可）。文書類については、2024年度前半までに目録作成を完了させ、秋をめどに資料全体の公開を開始する予定です。（文書類は現在未公開。視察・取材をご希望の場合は九州大学大学文書館までご相談ください。）

吉岡氏は日本の科学技術論の牽引者であり、その研究にかかわる資料が残されていることで、吉岡氏の科学技術論研究がどのように形成されてきたかを跡づけることが可能となります。このことは、吉岡資料が学問分野としての戦後の科学技術論の発展過程を明らかにする上で欠かすことのできない第一級の資料であることを示しています。日本の学術史の一分野にとって極めて貴重な資料であることが、「吉岡資料」の意義の1つです。

また、吉岡氏は日本のエネルギー政策、特に原子力政策に大きくかかわったため、原子力利用推進派と反対派双方の資料が数多く残されています。吉岡氏は安全性やコストの面から原子力利用に批判的であったため、吉岡氏の旧蔵資料、とりわけ政府の各種会議資料中に見られる批判的な書き込みは、今後の脱原発運動にとって示唆に富むものであると考えられます。一方、原発推進側にとっても、吉岡氏の批判を受け止め、これに応えることで、原発推進に説得力を持たせることができるため、学べることが多いと期待されます。

今後の原子力政策を考える上で、非常に重要な内容を含んでいることが、「吉岡資料」の大きな意義であると考えられます。「吉岡資料」を一般公開することにより、日本の科学技術論や原子力政策の研究が飛躍的に進むとともに、今後のエネルギー政策に資することが期待されます。



（左写真）吉岡氏の使用していた手帳類。研究・教育や、原子力政策への関与で多忙であったことがわかる。

○吉岡齊氏 略歴

- 1953年 富山県に生まれる
- 1983年 東京大学大学院理学系研究科博士後期課程単位取得退学
- 1984年 和歌山大学経済学部講師
- 1986年 和歌山大学経済学部助教授
- 1988年 九州大学教養部助教授
- 1994年 九州大学大学院比較社会文化研究科教授
- 2000年 九州大学大学院比較社会文化研究院教授
- 2010年 九州大学副学長
- 2018年 逝去（享年 64）

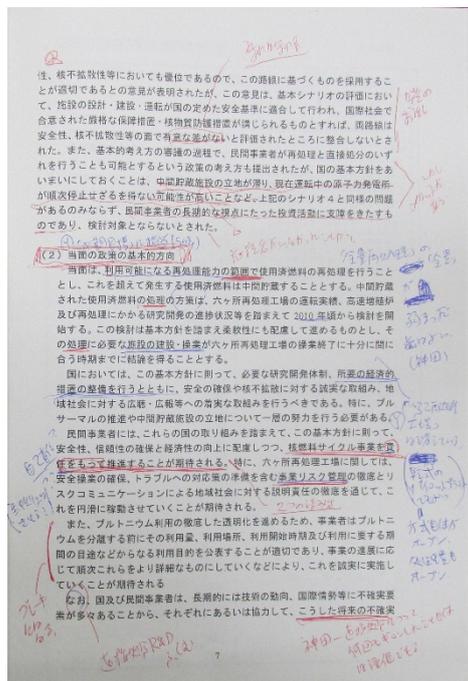
○「吉岡資料」について

資料は大きく2つに分けられます。1つは図書であり、約12,000冊からなります。吉岡氏の専門分野である科学技術論や原子力関係のもの、吉岡氏の論文が掲載された学術誌に限らず、人文・社会科学分野のものも少なくなく、吉岡氏の研究の幅の広さがうかがえます。その多くには書き込みがなされており、こうした図書が吉岡氏の研究や活動にどのように反映されたかがよくわかるものとなっています。

もう1つは、紙の文書類と電子ファイルです。紙の文書類は10万枚以上にのぼり、原子力委員会、総合資源エネルギー調査会、福島原発政府事故調等、吉岡氏のかかわった政府の会議資料が多数残されているほか、原子力市民委員会など市民運動等に関する資料、戦前からの科学者運動に関する資料、講義資料、学生時代からの手帳等が含まれています。会議資料等にも書き込みが非常に多くなされており、吉岡氏が日本の原発政策に対して真摯に取り組んでいたことが示されています。電子ファイルは約10GBあり、原稿等が含まれていて、研究論文等がどのように執筆されたかを跡づけることが可能になっています。



吉岡齊資料（書庫内）



多数の書き込みが見られる資料